

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 59-036860

(43)Date of publication of application : 29.02.1984

(51)Int. Cl.

G06F 15/00

(21)Application number : 57-146781

(71)Applicant : NITSUKO LTD

(22)Date of filing : 26.08.1982

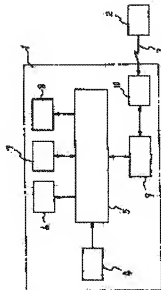
(72)Inventor : IWAMA TERUHIKO

(54) METHOD FOR DISCRIMINATING RELUCTANT DATA INPUT

(57)Abstract:

PURPOSE: To prevent the input of reluctant transaction due to exaction and to prevent the unjust use of a card by dividing the secret number of the card into main and sub numbers, and when the subnumber is inconsistent in spite of the coincidence of the main number, making a computer execute false data processing.

CONSTITUTION: When a sub-secret number registered as a number consisting of plural digits is inputted from an input part 4 and then a main secret number consisting of plural digits is inputted, only the sub-number is displayed 6 through a microprocessor 5 and the main number is displayed so as to be prevented from others' steal glance. Once stored 7, both secret numbers and data related to transaction are sent to a host computer HC2 in accordance with the indication of the microprocessor 5 and then only the sub-number is returned from the HC2 and displayed on a position following said display. When both the main and sub numbers coincide with each other, the input transaction is processed. At the inconsistency of the sub-number the HC2 executes false data processing. When input is exacted from other persons, danger and unjust use of the card can be prevented by inputting a false sub-number.



⑬ 日本国特許庁 (JP)
⑭ 公開特許公報 (A)

⑮ 特許出願公開
昭59-36860

⑯ Int. Cl.³
G 06 F 15/00

識別記号
1 0 2

庁内整理番号
6649-5日

⑰ 公開 昭和59年(1984) 2月29日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑱ 不本意なデータ入力の種類方式

川崎市高津区北見方260番地日
本通信工業株式会社内
⑲ 出 願 人 日本通信工業株式会社
川崎市高津区北見方260番地

⑳ 特 願 昭57-146781
㉑ 出 願 昭57(1982) 8月26日
㉒ 発 明 者 岩間峰彦

明 細 書

1. 発明の名称

不本意なデータ入力の種類方式

2. 特許請求の範囲

計算機システムとデータ入力装置を備えた中で、
所望のデータを照合する照合方式において照合番号
と照合番号とを照合し、照合番号が一致した場合のみ正解の
データ処理を行い、照合番号が不一致の場合は
誤りのデータ処理を行わしめることを特徴とする
不本意なデータ入力の種類方式。

3. 発明の詳細な説明

本発明は照合手段でデータの入力を検出された
場合に入力データを照合手段に照合することにより、
誤差を最少限に止めるための不本意なデータ入力
の種類方式に関する。従来の照合方式は照合
手段が公共性のある場所では不本意な照合を想定
しているため、照合防止の方法としては照合手段が入

力する照合番号と照合番号とを照合すればよい。

しかしながら従来のこの種の方式を使用した装置が汎用化
され個人所有となり、公共性のない家庭等で使用が実現
した場合、個人の作業効率により入行から入行への
検出時の動作がなされる照合に列しては本人が意図にさ
られるため、余儀なく照合番号を入力するので照合番号
の照合番号の照合だけでは照合防止の効果が無い欠点
がある。

本発明はこの欠点を無くするため照合番号として個人照別
の照合番号の照合に本人の意思に基づく入力データ
で、正常な入力データか照合番号による入力データかを
識別するための照合番号を設けて、照合番号の照合の正
否に基づく照合システムは入力データを照合するようにな
し、本人に誤られることなく、照合番号を促進し見
かけ上のデータ処理を行わしめる方式を特徴とする。

次に図に基づく詳細に説明する。

第1図は本発明の一実施例を示すブロックダイアグラム
である。1はデータ入力用装置、2は計算センター
等に取込まれた計算機システム、3は通信回線、4はプ

特約第59- 36860(2)

データ入力部、①はデータ入力用端末装置として紙テープ読
取機を用いるためのマイコンプロセッサ、②は動作手順
やデータ階層を表示するための表示部、③は記憶部、
④は各種機能を実行するためのプリンター、⑤は読取
端末装置と計算機システム間でデータの送受信を行うた
めのデータ送受信部、⑥は計算機システムとデータ入
力用端末装置を通信回線を介して接続するインターフェース
部である。

第1期100においてデータ入力部から複数の情報からなる
 を見解された判断結果情報（例へば354とする）をアン
 ーは該判断結果情報を入力して、複数の情報の前からな
 る判断結果情報（例へば4569とする）とデータを比較する
 マイクロプロセッサ7を介して表示部14に判断結果情報の
 値が2（図4の②）の値として354と表示され、主記憶
 部15が第1期に蓄積されたいずれに（図4の②）の値を
 示される。一方データ入力部決定部の所有者がデータ
 入力部を他人から譲渡する場合には、表2のデータ転送
 する目的で前記判断結果情報と異なる任意の値、例へば
 559を入力すると、表示部14は該値2（図4の②）の値

が表示され、開始証番号の入力が自分の意志通りに入力
されたか否かを確認することができる。

次に表9に示れた簡略化番号はマイクログラフセリから
 により記憶部7に記憶され簡略化データ入力部4より入
 力した各番データと共に記憶部7に記憶される。

既にデータ入力能力 4 から本データ入力用端末装置に該当する計算機システムがデータ通信手段を介してデータ伝送で呼び出され、計算機システム 2 とのデータリンクが確立すると計算機システム 2 よりユーザ送付指示命令コードが衛星用インターフェース 10、データ受渡装置 9 を介してマイクログロブシステム 5 で複製され、前記記憶部 6 に記憶されたデータの元、データ 4 を端末識別番号、装置識別番号、標準装置番号等が計算機システム 2へ送られる。計算機システム 2は、衛星用装置番号、衛星地球静止衛星番号及び前記標準装置番号をメモリに一時記憶し、装置標準番号等を前記データ入力用端末装置に返送し、標準装置の表示部 4 に表示されたデータを入力し、入力されたデータは前記データが複製してメモリに保存され、次に前記データが複製して見

現して本邦番号を表示し、従来の四桁電話番号を入力した時は旧四桁に2 図位(以下)より変更し、新邦番号の所有者に該四桁番号の廃断を要求め、新邦番号の所有者に該2 図位(以下)に示す1 図位d 図とe 図の番号が併しむ番号であればデータ入力に依り「確認」の入力を以て「確認」番号をマイグレーション番号、データ送受装置及び通信インターフェースとを介して計算機システムへ送出する。計算機システムは前記旧邦番号新邦番号を元に変換(換装)データコンテントに合致するべきデータの紐付けを行い、旧邦番号が正しい番号と一致していれば互換のデータ処理を行い、前記データ入力新邦番号1 のワンダー・エラーに遭遇しない、前記インターフェースは、データ送受装置、マイグレーション番号及び前記換装番号をプリンター・コードとする。一方前記番号の互換換装番号が一致しない場合は例へば、556 の場合は換装処理を行ひ増減を前記旧邦の番号で処理するのである。この場合互換換装番号の増減と誤換換装処理の増減を前記換装番号の使用回数に算入することには出来ないであろうのである。

漁民による監視監視を行なった場合でも犯人にそれと気付かれることはない。因、主観証番号が一家しかない場合は従来通り監視証システムがデータ監視を受け持つため監視請求其後の所有者が主観証番号の入力ミスに気付く。しかし監視証番号が一家しかない場合は上述のように、監視証システムは監視データを出力するため、所有者は入力した監視証番号を確認する必要ある。

また、照読紙番号の入力方法として、温度カードを使用することにより通常使用の番号の入力：スベを減らすとともに誤表示部への表示も不要となることは容易に考えられる。

以上解題に脱列したように善惡データ入力進捗監視の所有者は、他人から脅迫強要され匿名番号を入力する時、提議者に見分けられず、本人の意害に害ついたデータ結算を計算機システムに実行させることができる。一方計算機システム側においては、データ入力監視装置からの脱線データ相違点等のデータ内容が異なる場合、これらのデータに基づき防犯装置の行動がと

特開59- 36864(3)

れ、秘密を最少限に止めるとともに該商標を所有者の者の使用をかわすことができるため今後如何に保護すべきかのデータ処理分野に於ける保護に對して大きな効果が期待できるものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一例態を示すブロック図である。

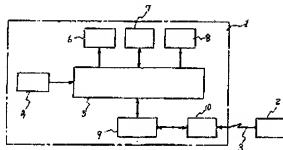
第2図(A)は組合番号の表示の一態例、(B)は組合組合番号の入力用と計算機システムからの返答時とを比較表示した一態例。

- 1 データ入力端末機 2 計算機システム
- 3 組合組合番号 4 データ入力用 5 マイクロプロセッサ
- 6 表示部 7 記憶部 8 プリンター
- 9 データ送受信部 10 図面インターフェース

特許代理人
日本通商工務株式会社
代表者 山田 康



第1図



第2図

